

□日時：平成27年1月8日（金）15時～17時

□場所：エスポワールいわて 特別ホール

○盛岡広域圏のUターン世代、言い換えると、子どもを産める力を持っている世代がかなり大きく流出している。こういう層に対して、今後、手厚く支援していくかということかと思う。

○総じてうまくまとめていただいている。もう一声、特徴・特色、これが売りだよというのがふたつくらいあれば、もっと良くなるのではないか。

○大変よくまとめていただいた。これは「戦略」なので、次は具体的な「戦術論」の話をしていかなければいけないと思う。

○戦略を実行するために色々成果指標の項目が出てくれば良いと思う。現在の市町単位の目標があつて、それを積み上げて、全体の目標になるというようなことになるのではないか。

○「女性・若者が活躍できる取組の強化」に、文章があと何行かあれば良いのではないかと思う。

○色々意見を申し上げたことが取り入れられている。

目指す姿ということで「産学金関連の連携で築く、豊かさを生み、分かち合う、盛岡広域圏」とあるが、あえて言えば、盛岡広域というのは本当に金融の機能が集積しているところで、恐らくそういった意味では他の圏域とは違うのではないか。

○全体的にはすごく分かりやすいかと思う。欲を言えば具体的な方策のところをもう少し明確である方がいいかと思う。

○教育の現場にいる者の率直な意見、感想として、大人は、若い世代に対して、「無限の可能性を信じて都会に飛び立っていけ」というようなことを、あまりおっしゃらない方がいいのかなと日々思うことが多い。ゆくゆく岩手県に帰ってきて、そこで生活の礎を築いていこうと考えている人が、一生の中で人間関係等々築いていく上で、重要な5年間10年間を、縁もゆかりもない東京等の都会に出ていかないほうが良いのではないか。

○ジェットロとして、観光の視点で、外国人をいかにたくさん岩手県に盛岡に呼び込むのか、今後支援をさせていただければ思う。

また、人口の流出は改めて見ると、すごい人数、勢いで減っているなというのが分かる。非常に大きな問題であり、盛岡を中心に、新しい雇用の創出を少しずつ考えていかなければならないのかなと思います。ジェットロで出来るのは、外国企業の誘致など。必要に応じてジェットロとしても全力で支援させていただきたいと思う。

- これだけきちんとまとめたのだから、多くの人に読んでもらうことをきちんと考えていかなければと思う。
- 「目指す姿」については、私たちはこれを目指したいのかと疑問に感じるところがある。
- 具体的な方策については、今後深掘りしてきちんとやっていく必要があると思うが、この方策はここまで多くなくて良いのではないかと思う。例えば新規就農者支援は、今までもやってきているがなかなか成果が上がっていないところがある。それでもそこを目指すのか、あるいは、今いる人たちの売上げを向上させることを目指したほうが良いのではないか。力を分散させてしまう印象をこの方策の数を見て思ったところである。
- 私は、東京生まれの東京育ちで、岩手に来てまだ7～8年しか経っていないが、岩手の皆さんは岩手県のことをすごく愛していると強く感じている。  
例えば、観光に関して、外に対するアピールがあまり上手でなく、圏域外からの観光客を呼び込めていないということは、裏を返せば圏域内のお客様に泊まらせていただいている割合が高いと見えなくもない。もっと県内の皆さんにも自分の県のことを知っていただけて好きになっていただけて、県外の人たちにもっともっと自分たちの県を愛してもらえるような方向が見えると良いのではないか。
- 私は、Uターン組であるが、やはりここが住みたい町だった。海外を何十箇所と旅行したりインターンシップを経験してきたが、その中で選択した町がここだった。地元だったこともあるが、選択してやってきた。そういう人たちが、若い世代にも結構いる。そういうことを発信していくことが次につながっていくのではないかと思う。  
岩手は、四季がはっきりあり、農産物や魚介類もあってとてもバランスが良い。
- キーワードは「若者が住みやすい」、「住みたくなる町」、というところか。
- 具体的方策が多いという話があったが、実際にこれを進めていくと3つの市と5つの町でどこかどこかがマッチングして取り組むということを考えると、我々が個々に絞る必要は無いのではないかと思う。
- 「目指す姿」については、この盛岡広域圏に住んでいる小学生・中学生が、「自分たちの盛岡広域圏は、こういうところが素晴らしいんだよ」という教育をして、その子どもたちが自分たちでこういう町を目指したいと発言をする場を作っていくことが大切なのではないか。
- 子どもたちが夢を持ち、自分たちの町を「いいよね」と言えるような、そのような目標も必要だかなと思う。

○私は、青森市出身だが一生ここにいてもいいかなと思ったのは、やはり人が良くて、あんまり嫌な人と会わないことが大きかった。

東京で働いていたときは、いろんな人がいるのでストレスがあったが、こちらへ来てからそういうストレスはすごく少なく、私もここに住みたいと思うし、自分の子どももここで育ててほしいと思う。ただひとつ、将来、岩手県がどうなるのか不安に思うところはある。スローガンとしては、「100年後も元気な町」など、「大丈夫だ」というところが見えると良いと思う。

○私はずっと盛岡に住んでいるが、「ふるさと」、「母の懐」というような印象をこの地域に持っている。

○スローガンとして、「夢」とか「子どもたち」とか「若者」ということが必要だと思うが、具体的な戦略としてチャレンジする姿勢が出てくるものが必要だと思う。

東京圏には4千万人、人口の3分の1の人が住んでいる。そこをマーケットにして、生き残っていくのが岩手の道ではないかと思う。まず岩手のものを買ってもらい、それから遊びに来てもらう。気に入ってもらったら住んでもらうという流れが出来ると良い。

東京に住んでみて、この地域の素晴らしさが分かる。Uターンしやすいような環境づくりが必要である。外を知って人脈を作り、外の厳しさを知って、自分のふるさとのよさを分かるということも大事かと感じる。

○「子どもたち」や「住みやすさ」とか「バランス」とか、そういうような言葉が入ってくると良いのではないか。

○「ベストプラクティスアプローチ」という言葉が今ある。色んなところでやっている企業秘密みたいなものを全てオープンにしていって取りをしようという考え方。圏域の情報を共有しましょうと言う話になっていかないと、進まないのではないかと思うので、何らかの機関をつくって、情報交換することが必要ではないかと思う。

また、一回県外へ出て行った若者を呼び戻すことは、ずっとやってきたことである。ところがなかなか帰ってこない現実があるので、子どものうちから言うておくことが必要なのではないか。

○盛岡広域圏のネーミングをなにか作れば良いのではないかと思う。

○「連携協約」のことがよく分からない。

○経済の場合は行政だけでは駄目である。産業は行政を越えたところにあり、メインのプレイヤーである、経済人が議論し、こういうことを行政側をお願いしたいという形にならないといけないと思う。その辺は十分に気をつけていただきたい。

○これはある面では、地域の緩やかなイノベーションを起こすための戦略だと思う。それを進めるためには、プレイヤーのほかにオーガナイズする組織体やイニシエーターの組織だったり、人がいて、

引っ張っていくことが必要である。そういうことを念頭に将来的には広域圏として独立した組織体ということも考えていく必要があるものとする。

○なぜこうした取組が必要なのかということに立ち返って考えると、雇用の創出をして、ここに住み続けられるということが元々の発端である。人口減少にどう対応していくか、その雇用の創出の部分を明記する必要があるのではないかと思う。

同様に、分野別の産業だけではなくて、例えば創業支援をしていくとか、それからブランディング、こういったあたりのことはこの中に書き込む必要は無かったのかと思う。

○盛岡と仙台がどこ違うかという、仙台の駅前行くと若い女性がそこら辺のところでイタランチしている、盛岡には無い光景。昔は盛岡にも東京本社の支店がいっぱいあった。支店があるとそこに営業マンが来て、事務職に女性が一人二人いることになる。失われた20年でそこがどんどん撤退してしまった。やはり、事務職をやるような女性をつくっていく為に、雇いを創出していく必要がある。

○企業誘致は、ハードルが高いかもしれないが、すでにある会社などに期間限定で移住してもらうというのがとても良いと思う。来てくれると岩手のファンになってくれることが期待できる。そういう取組への補助があると良いのではないと思う。

○飲食店にどうして地元のものを使えないか聞き取りをすると、一番の問題は「送料」である。近くだけでも、配送するには時間がかかるし、コストもかかる。それだったら市場なりスーパーで買った方が安くなってしまふ。また、この生産者の方から欲しいと思っても、その方が全部の量をまかなえるわけではない。

○地元に対して色々な食材を提供したいと思っているが、やはり物量となると京浜市場をメインに出荷することになる。地元でこういういい食材があると言うことをPRしていく必要がある。

○8つの市町で働いている奥さんたちがどうやったら自分たちは子育てしながら働くことができるか、どういう問題が起こっているか、8つの市町の子どもをもっている奥さんたちが自由闊達に議論できる場所と、独身の女性、たとえば高校生が、どうやったらこの8つの市町に残って働きたいと思うかと議論して、どういう意見を持っているのかという、そういう場を作って欲しいと思う。

○子どもの頃から地域のいいところを擦り込みをした方がいいということには、非常に賛成するが、果たして県内、盛岡広域圏の中に若者を囲ってしまつて、それで若者が本当にハッピーなのか、て考えると、違うのではないか。外に出て行く機会を失わせてしまつと、人間として成長する機会が削がれてしまふ。

○一度出てしまつと中途採用で働ける場が少なく、帰ってくるのが難しい現実がある。我々としては、盛岡で働き続けたい人が働ける場はなんとか作っていきたいということとずっと取り組んできた。